

## 課題解決型高度医療人材養成プログラム 取組の概要と推進委員会からの主なコメント

### テーマ①：精神関連領域

		整理番号	1
申請担当大学名 (連携大学名)	筑波大学 (茨城県立医療大学、東京慈恵会医科大学)計3大学		
事業名	精神科多職種連携治療・ケアを担う人材養成		
事業責任者	医学医療系臨床医学域精神医学教授 新井 哲明		
<b>事業の概要</b>			
<p>本事業では、増加及び多様化する精神疾患・障害に対し、トランスディシプリナリーなチームで対応できるメディカルスタッフを養成する。多様性に対応するため、多分野の精神医療専門家を擁する筑波大学の学内連携、茨城県立医療大学及び東京慈恵会医科大学との大学間連携、地域連携という3つのリソースを活用する。教育プログラムの運用では、10年以上実績のある筑波大学の全国がんプロeラーニングクラウドと連携し、隔々の講義対象者にまでアプローチする。</p> <p>さらに、独自に作製するドラマ形式の映像教材を利用し、より実践的な教育を行う。全ての多職種協働へのオールラウンドな対応を習得する履修証明コースと、疾患特異的に多職種協働を学習するインテンシブコースを用意し、多様な学習を可能にする。これらにより、精神科リエゾン、リハビリテーション、コミュニティケア等多様な状況での多職種協働に対応できるメディカルスタッフが養成される。</p>			
<b>推進委員会からの主なコメント</b> ○：優れた点等、●：改善を要する点等			
<p>○チーム医療に視点を置き、多様な多職種連携協働に対応するため、学内・大学間・地域の3つの連携を活用し、様々な施設の協力を得た上で、地域包括ケアへの実践を交えた多面的人材育成プログラムを推進することで、精神科疾患に対する多職種連携医療・ケアを担う人材の養成が期待される。</p> <p>○プログラム修了者の内訳が明記されているなど、各職種の目指す専門性が明確化されている。</p> <p>○薬学分野に関する教育について、薬学部を有しないものの、薬剤部長（臨床薬剤学教授）と地域の薬剤師会との連携によって補完されており、十分な教育効果が期待できると考えられる。</p> <p>●多様なコースが設けられるが、受入れ人数が少ない印象がある。また、キャリア形成への支援も少ないように見受けられることから改善が望まれる。</p> <p>●各コースの受入開始時期が平成32年4月からとなっており、事業期間における教育期間が短いことから、学位取得や更なる専門性の習得を目指し、より早期からの受入開始が望まれる。</p>			